

デザインも色も多彩に揃えた京座布団  
伝統技術と『床座』の魅力を世界へ

株式会社 高岡

代表取締役 高岡幸一郎さん



高岡幸一郎さん

平成22年度 採択事業

自社ブランド「洛中高岡屋」を展開

株式会社高岡は、大正8（1919）年の創業以来、手作り座布団を通して京都の人々の暮らしに深く関わってきました。京都の老舗百貨店に、それまでオーダーメイドだった寝具の既製品が出来たときから、寝具や座布団の製造卸しを主な業務とし、長い年月の間には工場による大量生産が主流となる中、先々代、先代と手作りを貫き、工房と職人は決して手放そうとしなかったとか。そのあとを継いだ3代目が、暮らしが欧米化する中、日本人独特のくつろぎスタイル“床座”に着目。平成13（2001）年、座布団をキーアイテムとして立ち上げたのが、自社ブランド「洛中高岡屋」です。「ソファでくつろいでいても、知らず知らずソファを背もたれにして床に座っていたり、座卓でパソコンをする人も多いなど、床座の習慣は日本人にしっかりと根づいています。そんなとき座布団を使うともっと楽で快適。ならば、新しい床座アイテムとしての座布団を提案しようと考えました」。そう話すのは代表取締役の高岡幸一郎さん。

現在では座布団だけで21種類、生地組み合わせは木綿だけでも1400通りという充実ぶり。ほかに麻、シルク、西陣織、外国ブランドとコラボレーションした生地など多彩に展開しています。



おじゃみシリーズの一部

伝統技術の継承を信念として

今という時代に合わせながら、決して揺るがないのは、「自社職人とともに伝統的な技術で座布団を作り続ける」こと。高岡では生地の裁断から仕上げまで自社工房で、それぞれ専門の職人が担当。座布団の輪郭3辺をミシンで縫う以外、綿入れ口である残り1辺は打ち替えの為に手縫いにするなど、全てが手作業です。ことに年季が必要なのは綿入れ。綿を折り紙のように畳み、中央の体重が掛かる部分には綿を足して、その一塊を入れていき、すみずみにま

知恵と卓越した技術 観光資源の活用

でいきわたらせます。「こうして、昔ながらの美しいかまぼこ型の京座布団になります。手作りならではの形と座り心地は、機械では決して生み出すことはできません」。

さらに伝統の京座布団は、座布団の中央を十字型ではなく人の字に似せた三方綴じにしています。お客様に間違えて出さないよう、一方が座布団の前、二方が後ろを指しているのです。四方の房は座る人に邪気が近づかないようにという意味が込められているとか。

手作りの京座布団には職人の思いが込められ、高岡には、「伝統は一度途切れたら取り戻すことはできない」という危機感と、京都の伝統技への自負が溢れています。



好評の綿入れ体験

床座の快適さを実感してもらうために

プランニング部の雑賀香江さんによると、当初はなかなか認知されなかった洛中高岡屋ブランドですが、使い方の提案をしたところ、徐々に注目されるようになったそうです。「おじゃみ座布団なら割り座や胡坐も楽ですし、お客様から使い方のヒントをいただくこともあります。たとえば、直径1mのせんべい座布団はお父さんへのプレゼントというイメージだったのですが、赤ちゃんを寝かせるのに調度いいということで、出産祝いに使っていただいたりしています」。ファンは確実に増えても、常日頃、まだまだアピール不足を痛感していた雑賀さん達。「弊社の商品は百貨店でずと寝具売場に並んでいることが多く、何気なく目にするというものではありませんし、インターネットでも座布団で検索される方が少ないんですね」。そこでファンに応募し、採択されるとさまざまな形で活用しました。

「何より床座の魅力を知ってもらうこと」と、京町家で行われるイベントに洛中高岡屋の座布団を積極的に提供。また自社においては、床座や椅子座の「デザインアイデアコンペ」を開催。その審査発表を兼ね、他のファン会員と共同で英語落語会を開き、優秀作品を実物で展示するほか、落語会場にはいろいろな形の座布団を並べて

自由に座ってもらうようにしました。工房見学と綿入れ体験を行ったり、展示会へも出展。「この間、『長時間座っていても楽』という声を多数いただきました。これからも積極的に、床座の快適さを再認識していただける機会を設けたいと考えています」。



イベント会場へ座布団の貸し出し

海外へ新たなライフスタイルを提案

「京名物はたくさんありますが、『京都へ行ったら高岡屋で座布団を1つ作って帰ろう』、と思っていただけのような存在になりたいです。そのためにも座布団が特別なものでなく、もう一度、日常的なものになるよう私達も努力していかなければ」と雑賀さん。昨年は中国上海での京都フェアに、今年はドイツでの展示会に出展するなど、海外進出にも意欲的です。「日本ブームも定着し、ヨーロッパでは和室があったり靴を脱ぐ生活が少しずつ浸透していますから、座布団に高さを設けるなど外国仕様のデザインを考案すれば、必ず受け入れていただけたと思います」。

かつて座布団は夏用、冬用と使い分け、自分達の生活を快適にするとともに、客人へのもてなしのアイテムでもありました。京町家、お寺、華道や茶道といった伝統文化が多く残る京都から、「低く暮らす」ライフスタイルの豊かさが、改めて全国へ、そして世界にまで発信されようとしています。

事業概要

株式会社 高岡

<http://www.takaoka-kyoto.jp/>

代表：高岡幸一郎

業種：寝具・寝装品の企画、製造、卸売業

創業：大正8（1919）年 設立：昭和36（1961）年

住所：〒600-8331

京都市下京区五条通油小路東入ル金東横町 242

TEL：075-341-2251 FAX：075-341-2255